

## 礼文島トド島におけるオオセグロカモメ *Larus schistisagus* とウミウ *Phalacrocorax capillatus* 営巣数

風間健太郎<sup>1)2)</sup>・馬銳<sup>1)</sup>・安積沙羅々<sup>1)</sup>・綿貫 豊<sup>1)</sup>

<sup>1)</sup> 〒 041-8611 北海道函館市港町 3-1-1 北海道大学水産科学院

<sup>2)</sup> 〒 359-1192 埼玉県所沢市三ヶ島 2-579-15 早稲田大学人間科学学術院

## Nest numbers of Slaty-backed Gulls *Larus schistisagus* and Japanese Cormorants *Phalacrocorax capillatus* on Todo-jima, Rebun Island

Kentaro KAZAMA<sup>1)2)</sup>, Ei MA<sup>1)</sup>, Sarara AZUMI<sup>1)</sup> and Yutaka WATANUKI<sup>1)</sup>

<sup>1)</sup> Graduate School of Fisheries Sciences, Hokkaido University, 3-1-1 Minato-cho, Hakodate, Hokkaido, 041-8611, Japan

<sup>2)</sup> Faculty of Human Sciences, Waseda University, 2-579-15 Mikajima, Tokorozawa, Saitama, 359-1192 Japan

**Abstract.** Nest numbers of Slaty-backed Gulls *Larus schistisagus* and Japanese Cormorants *Phalacrocorax capillatus* on Todo-jima, Rebun Island, were counted on 3 June 2018 by searching the coastline of the island. The total nest numbers of gulls and cormorants were 428 and 72, respectively.

オオセグロカモメ *Larus schistisagus* は主にオホーツク海沿岸、カムチャツカ半島東部沿岸、千島列島および日本海北部沿岸等で繁殖する (Olsen & Larsson 2004; Brazil 2009; 日本鳥学会目録編集委員会 2012)。近年、国内の主たる繁殖地である北海道において本種の繁殖数が減少しており (環境省自然環境局生物多様性センター, 2016, 2017; Senzaki *et al.*, in press), 道内の正確な営巣数とその変動の把握が必要とされている。筆者らは、近年営巣数の報告がない礼文島トド島における本種の繁殖数を踏査により調べた。

2018年6月1日に海鳥調査のためトド島に渡り、3日まで滞在した。トド島の地形や植生については長谷部・先崎 (2016) に詳しい。踏査は6月3日の午前に行った。島の海岸斜面の尾根上を1時間ほどかけて徒歩にて一周し、斜面および岩礁にある巣を双眼鏡を用いて目視した。道北域では、6月初旬はオオセグロカモメの抱卵期に当たる (Kazama *et al.*, 2016)。巣の計数の際には、

斜面や岩礁上に置かれた巣材の上で抱卵するオオセグロカモメの個体数を記録した。この時、参考として、オオセグロカモメと同様の手法でウミウ *Phalacrocorax capillatus* の巣数も数えた。

オオセグロカモメとウミウの営巣数の分布を図1に示した。オオセグロカモメの巣は島の北側の海岸を除き、島全域の海岸斜面の尾根 (図2A) や断崖 (図2B) に点在した (図1)。合計営巣数は428巣であった。ウミウの巣は島西部および北西部の断崖 (図2C) と岩礁 (タタキ岩, 図2D) にのみ確認され、その合計は72巣であった (図1)。

トド島のオオセグロカモメについては、今野・千嶋 (2019) が1996年と2000年時点の生息状況を報告している。それによると、巣の分布範囲は本研究とほとんど同一であり、生息個体は1996年7月には約600羽、2000年6月には約250羽と報告されている (今野・千嶋, 2019)。これらが全て繁殖個体であったと仮定すると、営巣数はそれぞれ300および125程度と推定される。本研究にお

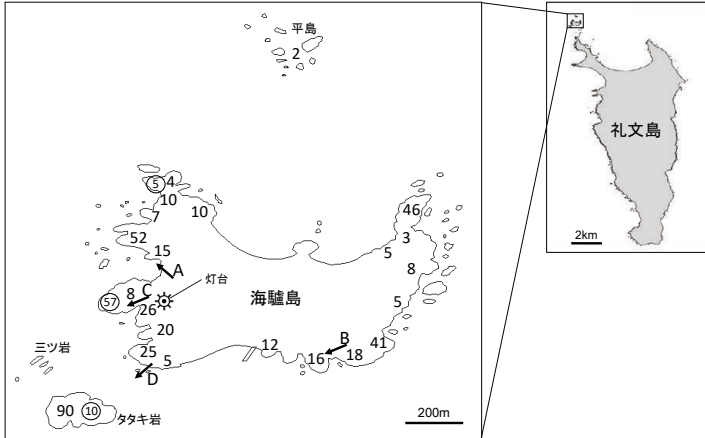


図1. 礼文島トド島におけるオオセグロカモメとウミウの営巣分布と営巣数. 図中の数字はオオセグロカモメの営巣数, 丸で囲まれた数字はウミウの営巣数を表す. 矢印とアルファベットは図2における写真撮影方向を表す.

Fig 1. Number and distribution of nests of Slaty-backed Gulls and Japanese Cormorants on Todo-jima, Rebun Island. Numerals and numbers enclosed within a circle indicate nest number of the gulls and the cormorants, respectively. Arrows indicate photographic direction in Fig 2.

る2018年の営巣数(428)は, かつての報告数を上回った. 本研究と今野・千嶋(2019)では計数時期や方法が異なるため営巣数の単純な比較はできないものの, ここ20年ほどの間トド島における本種の営巣数は安定もしくは増加傾向にあった可能性がある.

北海道ではかつて数百~千数百巣規模の営巣

地が主に北部や東部に点在していたが(Osa & Watanuki, 2002), ここ20~30年ほどの間に営巣数は激減し(環境省自然環境局生物多様性センター, 2016, 2017; Senzaki *et al.*, in press), 2017年には北海道レッドリストにおいて本種は準絶滅危惧種に指定された(北海道, 2017). 現在本種の国内最大規模の営巣地とされる知床斜里側

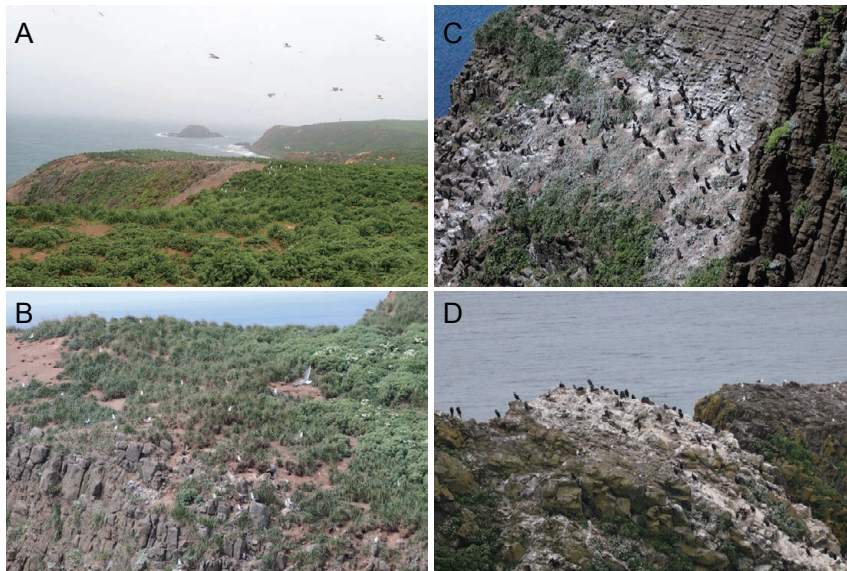


図2. 礼文島トド島におけるオオセグロカモメ(AおよびB)とウミウ(CおよびD)の営巣地. アルファベットは図1における撮影方向に対応する. Aは風間健太郎が2018年6月に撮影, その他は風間麻未氏が同年7月に撮影.

Fig 2. Nesting areas of Slaty-backed Gulls (A and B) and Japanese Cormorants (C and D) on Todo-jima, Rebun Island. Alphabets correspond arrows indicating photographic direction in Fig 1. A was photo by Kentaro Kazama in June 2018, and others were photo by Mami Kazama in July 2018.

と羅臼側の営巣数は2015年時点でそれぞれ400あまり（環境省自然環境局生物多様性センター，2016），それに次ぐ規模の利尻島の営巣数は2012年時点で250ほどと報告されている（Kazama *et al.*, 2016）。2018年におけるトド島の営巣数はこれらに匹敵する規模であった。今後も同地の営巣数変動を継続的に調査する必要があるだろう。

2018年におけるウミウ営巣分布は，島北部を除いて一円での繁殖が確認されていた2000年の調査結果（今野・千嶋，2019）より縮小したものの，2015年の調査結果（長谷部・先崎，2016）とは同様であった。また，営巣数については1996年および2000年（どちらも約180巣，今野・千嶋，2019）や2015年（128巣，長谷部・先崎，2016）よりも少なかった。今後も継続的な営巣数調査を行い，より長期的な変動を明らかにする必要がある。

#### 謝辞

野外調査にご協力いただいた鹿川義光氏と営巣地の写真を提供いただいた風間麻未氏に感謝申し上げます。本調査は環境省環境総合研究推進費「(4-1803) 洋上風力発電所の建設から主要な海鳥繁殖地を守るセンシティブティマップの開発（代表：関島恒夫）」にかかる野外調査の一環として実施された。

#### 引用文献

Brazil, M., 2009. Birds of East Asia: China, Taiwan, Korea, Japan, and Russia. Princeton University Press, Princeton and Oxford. pp.528.  
長谷部真・先崎理之，2016. 礼文島における海鳥の繁殖記録．利尻研究，(35): 25-29.  
北海道，2017. 北海道レッドリスト【鳥類編】改訂版

(2017年). <http://www.pref.hokkaido.lg.jp/file.jsp?id=1005561>

環境省自然環境局生物多様性センター，2016. 平成27年度モニタリングサイト1000 海鳥調査報告書.

[http://www.biodic.go.jp/moni1000/findings/reports/pdf/h28\\_seabirds.pdf](http://www.biodic.go.jp/moni1000/findings/reports/pdf/h28_seabirds.pdf)

環境省自然環境局生物多様性センター，2017. 平成28年度モニタリングサイト1000 海鳥調査報告書.

[http://www.biodic.go.jp/moni1000/findings/reports/pdf/h29\\_seabirds.pdf](http://www.biodic.go.jp/moni1000/findings/reports/pdf/h29_seabirds.pdf)

Kazama, K., M. Satô & K. Kosugi, 2016. Annual variation in breeding numbers of two gull species in response to regional stock size and local availability of Japanese Sand Lance on Rishiri Island, northern Japan. *Ornithological Science*, 15: 85-94.

今野怜・千嶋淳，2019. 1996年と2000年の海驢島で観察した鳥類と海鳥の生息状況．利尻研究，(38): 1-6.

日本鳥学会目録編集委員会，2012. 日本鳥類目録．改訂第7版．日本鳥学会．兵庫県三田市. pp. 438.

Olsen, K. M. & H. Larsson, 2004. Gulls of Europe, Asia and North America. Christopher Helm, London. pp. 608.

Osa, Y. & Y. Watanuki, 2002. Status of seabirds breeding in Hokkaido. *Journal of Yamashina Institute Ornithology*, 33: 107-141.

Senzaki, M., A. Terui, N. Tomita, F. Sato, Y. Fukuda, Y. Kataoka & Y. Watanuki. (in press) Long-term declines in common breeding seabirds in Japan. *Bird Conservation International*.